

3. 教育、学びへの取り組みについて

掲載内容について

「3. 教育、学びへの取り組みについて」では、平成27年度の教育委員会の取り組みの重点を示した「平成27年度教育の重点」に基づき、実施した事業や取り組み等について、その内容や成果、事業等の実績、今後の課題や次年度以降の取り組みについて、自己点検及び評価を下記のとおり掲載しています。

掲載例

重点目標 1 確かな学力の定着

平成27年度の教育の重点(教育における年度計画)を記載しています。

子どもたちにとって生涯にわたる学習の基礎となる知・徳・体の調和がとれた「生きる力」・・・
 ...また、学びのルールを徹底し、学習意欲を高めるとともに、家庭学習や放課後学習など保護者・地域と連携した取組みを推進します。

【主な取組み内容】

1. 言語活動の充実

- ① 児童生徒に基礎的・基本的な知識及び技能を確実に習得させ、また、それらを活用して・・・
 ...信頼関係による学習集団づくりを推進します。

教育の重点の「取組内容」に基づき、各課・館が取り組んだ内容や成果を記載しています。

平成27年度の取り組み及び成果

□ 全国学力・学習状況調査の結果と改善策を保護者へ情報提供し、市内各校において、
 ...また、各校の校内研修において、授業改善に向けての研修を実施し、校内で統一した学習規律に関するルール作りを進め、児童・生徒指導の一貫性について確立を進めた

各事業の実績等

1. 学校教育推進事業【継続事業】

(1) 事業の目的

創意と活力に満ちた特色ある学校園づくりに寄与し
 を図る。

「取組内容」に関する事業の実績について、市の決算成果報告書から引用しています。また、主に各学校・幼稚園で取り組まれた事業については、「学校園での取り組みについて」として掲載しています。

(2) 平成27年度の実績

① 国語力向上事業

言葉の美しさや表現の多様性に触れたり、自分の考えや気持ちを適切に表現したりすると同時に、郷土に対して目を向け、大切に思う気持ちを持つ子どもを育成するため、・・・

(3) 事業の評価（決算成果報告書における評価）

妥当性	A	効率性	A	有効性	A
-----	---	-----	---	-----	---

妥当性
 A：事業目的達成のため手段として必要で、内容も適正。
 B：手段として必要だが、内容検討の余地あり。
 C：手段として必要性が乏しい、または内容を大幅改善する必要あり。

効率性
 A：少ない経費で効率良く成果をあげており、費用対効果が高い。
 B：経費の削減に関して検討余地がある、または同経費でも成果の向上が期待可能。
 C：経費に対する成果が少なく、実施手法の改善を要する。

有効性
 A：予定の事業内容どおり結果を残すことができた。
 B：概ね予定内容を達成できたが、検討の余地あり。
 C：当初予定の事業内容と結果に相違があり、改善を要する。

今後の課題及び次年度以降の取り組みについて

□ 家庭・地域に各校の学力に対する課題を示し、より協力
 また、教員の授業力向上のために、夏季休業中などに、外国語活動の指導、日語活動の充実を図る
 ための授業づくり等、様々な教員研修を設定する。

「取組内容」に関する今後の課題及び次年度以降の取組を記載しています。